

ブラザー工業 16年度 Q4 決算説明会 質疑応答要約

Q) プリンティング市場の市況と競合環境に変化はあるか？

A) プリンティング市場については、毎年5%程度のペースで縮小しているという点に変化はない。そのような環境下で、ブラザーは強みのあるレーザー複合機・プリンターで高いシェアを維持していくという戦略は今後も変わらない。競合環境についても、大きな変化は無いと認識している。

Q) インクジェット事業の今後の収益性について

A) インクジェット事業は、採算性の高い製品へのシフトを進めたことで、16年度のP&S事業全体の収益性改善に大きく貢献した。今期については、前期のような大きな変化は難しいかもしれないが、インクジェット事業の収益性を維持していくことは可能だと考えている。

Q) 産業機器の17年度の売上収益予想が539億と、16年度比で約2割の増収予想となっているが、IT顧客向けの拡大が要因となるのか？

A) 16年度末に、IT関連顧客からの受注を獲得しており、上半期については、IT向けのウエイトが高くなるとは考えている。また、注力している自動車関連顧客向けも安定的な拡大を見込んでいることから、通期ではIT/自動車向けがバランスよく拡大することを見込んでいる。

Q) ドミノ事業の状況は？

A) ポンドの急激な変化などはあったが、コーディング・マーキング事業については、16年度は、各地域と計画をほぼ達成できており、今後もグローバルで安定期な市場成長が期待できると考えている。技術的なシナジー効果については、もう少し時間がかかると思うが、まずはドミノで先行してグローバルでのセールスネットワークの拡大を進めており、すでに100人単位で人員を増員している。デジタル印刷機事業については、ブラザーとの共同開発プロジェクトを進めており、順調にいけば、来年度にも具体的な説明ができるのではないかと考えている。

Q) ネットキャッシュが大きく改善しているが、今後の資金使途はどう考えているのか？

A) ドミノの買収で大幅なネットデットになった後、再びネットキャッシュの状態に戻すまでもう少し時間がかかると思っていたが、業績が堅調なことや、在庫削減、設備投資のコントロールなどの効果により、想定を上回るペースでバランスシートの改善が進んでいる。今後の資金使途については、条件が整えば、中期戦略で成長領域と定めているBtoBビジネス関連での投資などを考えていきたい。

以上